

部長	課長	課長補佐	係長	係員
第1回 伊那市・子ども子育て審議会			令和7年6月30日(月) 19時00分～	市役所 501会議室
出席者	【委 員】 宮坂文子委員、平澤潔委員、川村紗代委員、諸田昭博委員、飯島一訓委員、下島桐委員、中村和史委員、岡村真弓委員、小椋美恵員、宮原健委員、伊藤のり子委員、遠山豊委員 【事務局】 村松こども部長、澁谷こども政策課長、橋爪こども政策係長、宮下こども育成係長、木下保育係長 【関係課】 宮下子育てサポート課長、唐澤学校教育課長、矢澤教育環境整備課長			
配布資料	別紙のとおり			
説明の内容	以下次第のとおり			
1 開 会 こども政策課長 2 あいさつ 審議会長 3 協議事項 進行 審議会長 （1）こども部および関係課の紹介 （2）伊那市こども計画の推進について （3）その他 天使幼稚園利用定員の変更について 4 その他 次回 令和7年9月頃を予定 5 閉 会 副会長				
【議事録】				
協議事項（1） 資料1 各課の紹介 協議事項（2）①子どもの権利に関する条例について（資料2～4） 「こどもの最善の利益」「子どもの意見尊重」実現のためこどもたちの意見聴取を行うためのアンケート内容や方法について。 意見 こどもが一人で意見を述べるのは勇気がいるのではないか。学校でのグループワークでみんな				

が意見を出す中だと発言しやすいか。

意見

「相談できる人は誰ですか。」こどもは保護者や大人とは別の視点で悩んでいたりと、本人が困っていることに気が付かないことがある。家庭でというよりも学校場で意見を取るのには良いと思う。また、「どんなことが嬉しいですか」といったプラスの意見も良い。生活面、心理面、休日の過ごし方、発達面、居場所、安心につながるような項目。

意見

すべてのこどもが対象ということを明確に。正直にアンケートを書けない子ども、個人を守らなければならないということも大事。実情に即したもの。年齢によってとらえ方が違うので、方法についても工夫が必要。

議題①続き

こどもも大人も「こどもの権利」を意識するために効果的な方法について

意見

周知・認知には時間がかかる。SNSの発信やポスターなどの啓蒙活動を地道に行う必要がある。

意見

大人の意識が変わらないと、こどもに権利があるということを教えられない。大人自身が「こどもにも権利がある」という意識が必要。大人が集まる機会、PTAや参観日などで、具体的な事例を基にワークショップをしてみるとか、どういう権利が守られなければいけないのか、など具体的に大人が考え、こどもと共有することができれば、少しずつでも広まっていく。

意見

こどもからアンケートを取って課題を見つけるよりも、課題の根本的解決する方法が難しい。そういった場合に大人の意識が大事。行政から各施設（小中高・・・）等に一斉に理解を深めるように促す。保護者の気づきに繋げる。

意見

ユニセフの子ども条約は学校で扱う課題となっているので、子どもの権利、平等について全員が知るという意味では大事。自分たちの権利が身近に感じられるように。

議題②子ども若者アンケートについて。

こども若者の意見を表明する場として「こども会議（仮）」の立ち上げについて。

意見

こどもの対象年齢について。あまり小さい年齢だと意見がうまく発表できない。意見の聞き取りがうまくできないと結局形式だけになってしまって意味がない。

意見

青年会議所でもこども対象の事業を土日に行うが、こどもの応募が増えない。やはり、ワークショップとして学校の授業の中で取り入れることが人数を確保できるのではないか。こういった「変える、変えていく」という経験が大人になったときの意識につながる。小学生の時に「発言する」という環境の種を撒く。

意見

「こども会議（仮）」の趣旨について。何のためにやるものか。こどもの経験としてなのか、若者の意見を取り入れようとしているのか。法律は守る物なのか、変えていくものなのか、やりたい人だけがやるのか、意識改革をやるには小規模の単位よりも大きい単位、学校規模の授業として取り組んでまとめた内容を積極的に発言できる生徒を集めて会議するのはどうか。子どもたちの会議は声が大きい意見が通りやすいので、間に入る進行役が重要。

意見

やりたい人を集めるというのは良いが、実際は活発に意見が言えるこどもが主体になってしまうことが懸念される。おとなしいこどもの意見も大事。どう考えているのか、おそらく会議にも出ないだろうし、出ても手を挙げることも少ないと思うが、声に出せない意見が大事。大人と違ってこどもの1年はとても長くて考え方や物の見方にも変化がある。アンケートにしても、1回取ったらすべて、何回も取ればよいということではなく、方法を変えるとか工夫が必要。

意見

子供の意見を聴くのは大事な姿勢。年齢によって自分の思っていることをうまく表現できない子どももいるが、年代に応じた会議が出来たら。大人が「権利条約」自体をちゃんと読んだことがない人も居ると思うので大人が理解するのが大事。こども会議のなかでの議題も全部が続けていけること。継続して子どもの権利条約を学ぶ。何度も積み重ねが必要。時間がかかることではあるけれども、ぜひ行ってほしい。どんな小さな子どもであっても、自分たちで解決しようとする方法を探せる。大人が関わらなくても、異年齢の子どもが関わることなどできちんと解決することができる力を持っている。大人が決めつけてしまうのはどうか。

意見

こども会議の発表、提言を市長が聴く、偉い人が聴いてくれると自信につながると思う。

意見

市は高校生になると関わりが薄くなる。通学範囲が広がってしまうので市としてのフォローが難しい。こういった会議に高校生が中心に関わることで市との繋がりを持つことも大事。学校単位でも意見の出方が違うと思う。学年でやる、小中校で分ける、また、横断的に異年齢を混ぜてやるなど会議によって形式を変えてやるというのも良いか。

意見

政治参加という意味合いでいうと、一人ひとりの意見を聴くのが大事。テーマにするようなことについて世の中をどう変えたいのか、困っていること、自分では解決できないこと、みんなで力を合わせて変え、大きな流れを感じる。クラスなどで意見を出し合い、学校ごとに結論を出し、更に他の学校でも話す、学校の代表同士で話す、というようにだんだん上にあげ、ひとつの意見を提言できるようにしていくようなことがあると、大人になっても政治参加ができるのではないかな。

協議事項（３）

資料５

天使幼稚園利用定員の変更について

【その他】

次回は令和７年９を予定。